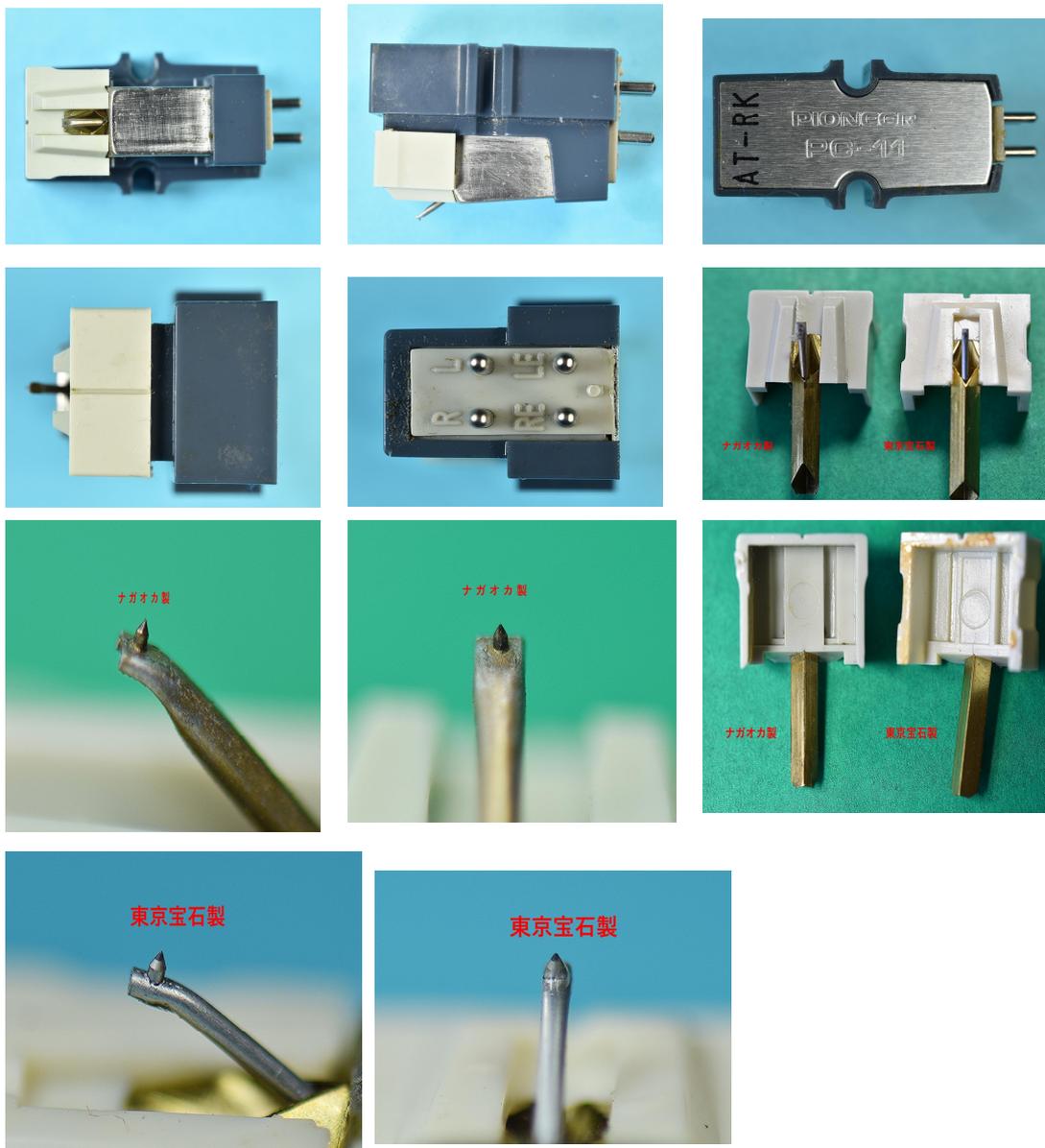


NO:46.1 形式:PC-11 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



① MM、② 15- 20,000Hz ③ 5mV ④ 0.6mil ⑤ 6.8g ⑥ 1.0 ~ 3.5(2.0 標準) ⑦ 200 ⑧ 50-100 ⑨ 24 ⑩、⑪ 25 ⑫ 2 ⑬ 10 ⑭、⑮、⑯ 1970.6 ⑰ヤブ-オーク⑱ 6,000 ⑳インターネット

特記事項：乳白色の PN-11 (ナガオカ製)、白色の PN-11(東京宝石製)などがあります。赤色の PN-15(ナガオカ製)も装着出来ます。

コメント：2g で試聴したところ、PN-11 東京宝石製は伸び伸びした明るい、透明感のある音です。低域から高域までバランスが取れています。PN-11 及び PN-15(PC-15 のスタイラス)ナガオカ製は低域が少しツマリ気味です。

NO:46.2 形式:PC-12 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)

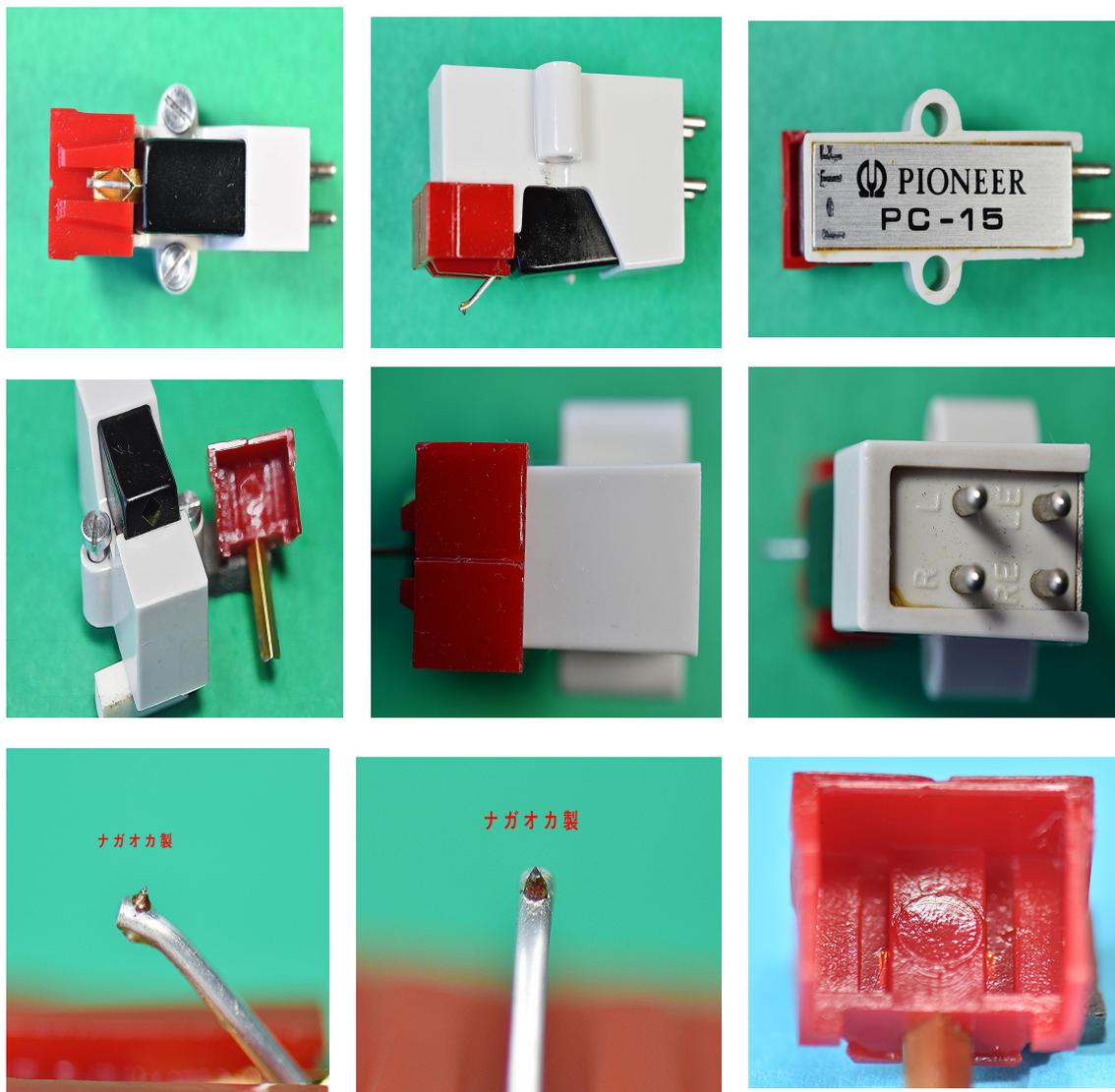


① MM、② 20- 23,000Hz ③ 4mV ④楕円ダイヤ ⑤ 5.4g(実測)⑥ 2.5 ~ 3.1(2.8 標準)⑦、⑧ 30-100 ⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰ヤフーオーク⑱、⑲、⑳インターネット

特記事項：PC-12 は PC-110 系のカートリッジで、海外向けモデルらしい。写真のスタイラスは赤色の PN-12 (純正品) と赤色の PN-12(東京宝石製)です。

コメント：2.2g で試聴したところ、純正品は伸び伸びした明るい、透明感のある音で、低音が強めです。東京宝石製は低音が控えめで低域から高域まで滑らかな聞きやすい音です。出力は純正品より 1mV 位少なく感じます。(要目の 2.8g より少なめの 2.2g 針圧でしたが、違和感はありませんでした。)

NO:46.3 形式:PC-15 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)

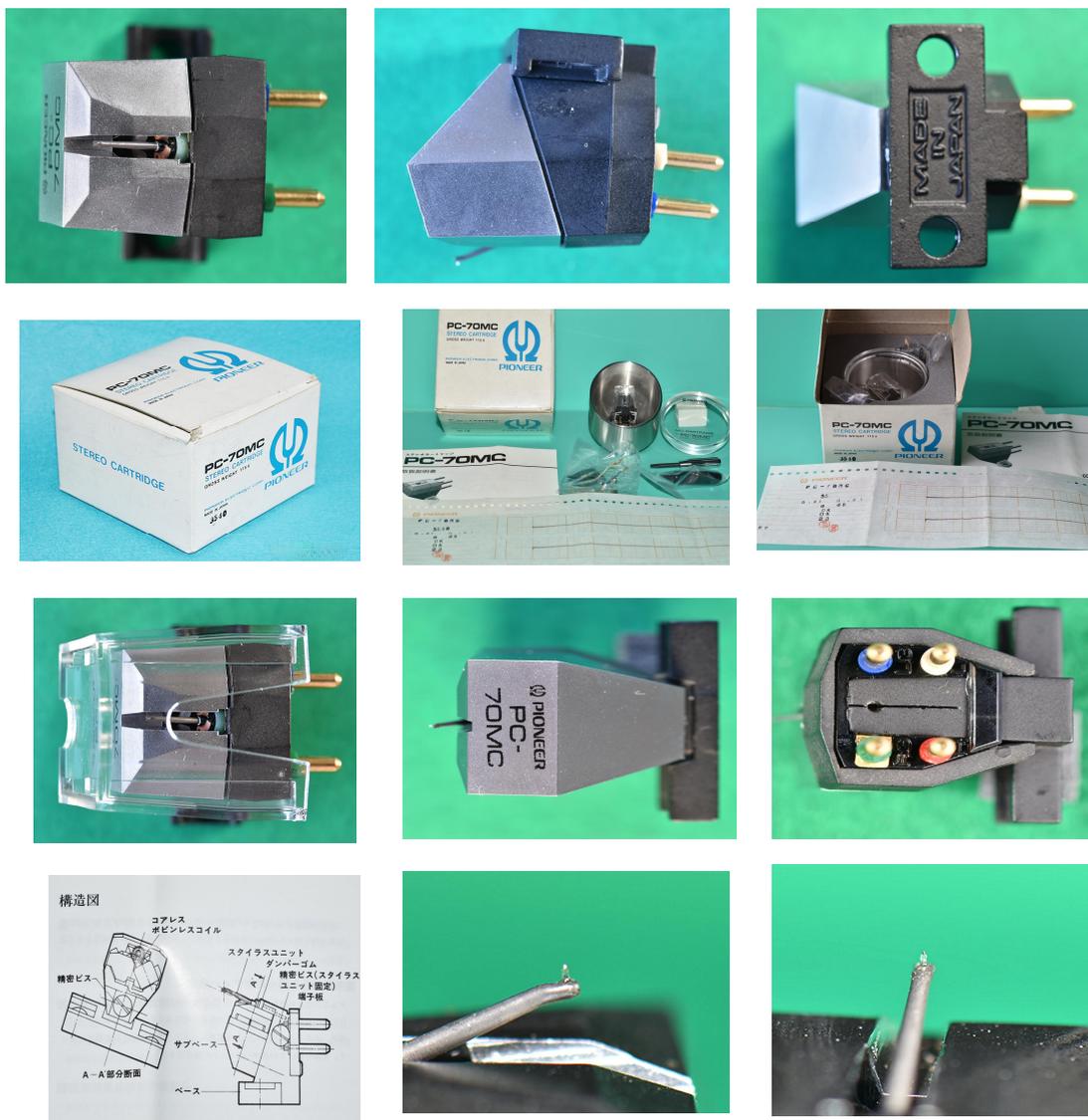


- ① MM、② 15- 23,000Hz ③ 3.5mV ④楕円ダイヤ ⑤ g(実測)⑥ 1.7 ~ 2.5(2.0 標準)⑦、⑧、
⑨ 20、⑩、⑪ 20、⑫ 1.5、⑬ 12、⑭、⑮、⑯、⑰ヤブ-オーク⑱ 7,500、⑲、⑳インターネット

特記事項：PC-15 は PC-11 系のカートリッジらしい。スタイラスは赤色の PN-15(ナガオカ製)です。

コメント：2.0g で試聴したところ、PN-15 はとても良い音で滑らかなダイアトーンです。低音も良い。PN-11 (ナガオカ製) を装着し試聴する。明るくてとても良い音で、低音も良く出てます。

NO:46.4 形式:PC-70MC パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)

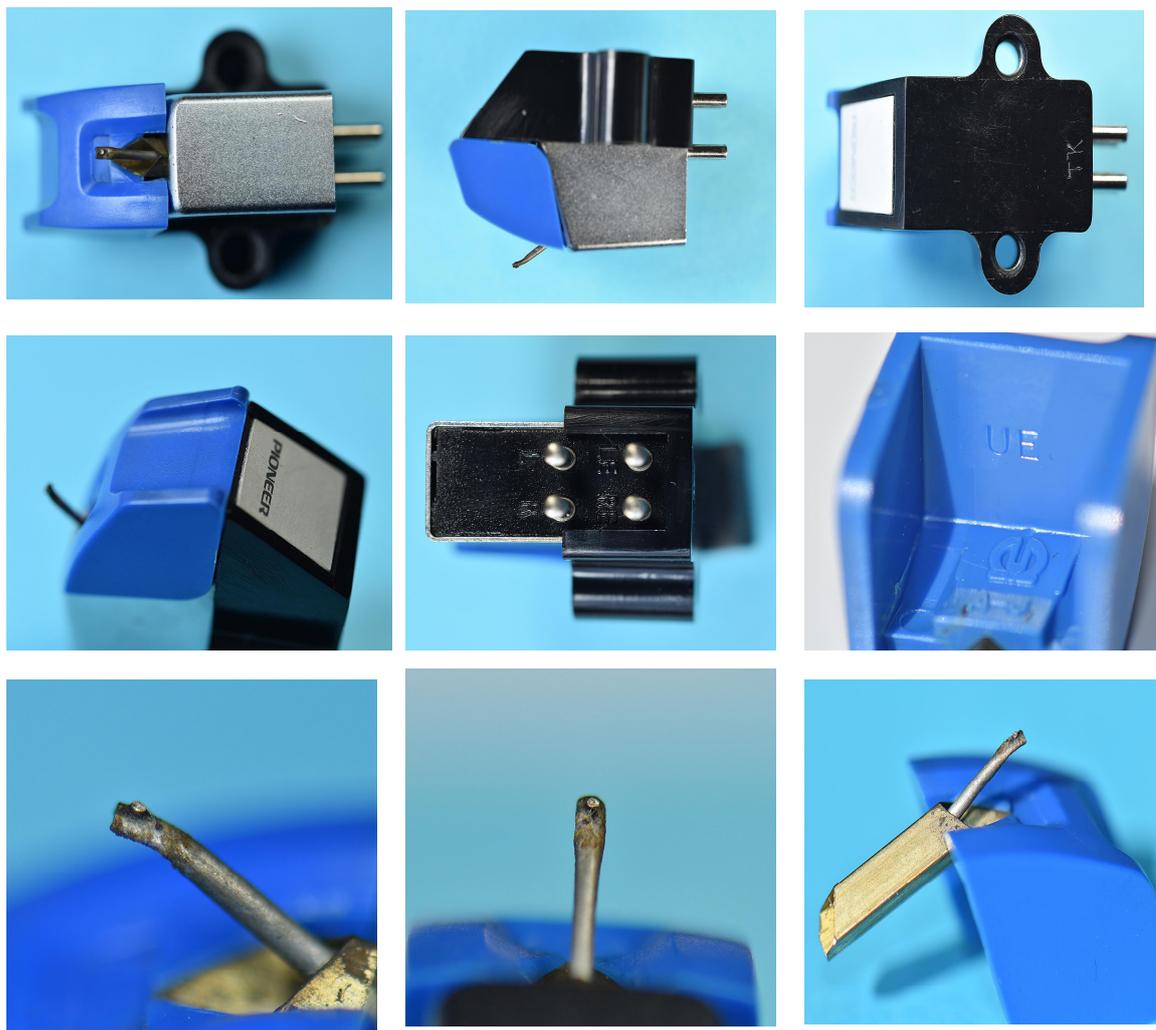


- ① MC、② 10 - 80,000Hz ③ 0.2mV、④ 0.2 x 0.8mil 楕円研磨、⑤ 4g、⑥ 0.9 ~ 1.5(1.2 標準)、⑦、⑧ 40-100、⑨、⑩、⑪ 35、⑫ 0.75、⑬ 16、⑭ 38、⑮ 1.0、⑯ 1980/10、⑰、⑱ 45,000、⑲、⑳取扱説明書、SG'84

特記事項：パイオニア独自の左右独立6極4マグネット磁気回路、磁気回路をコンパクト化して自重を4gに軽量化、無酸素銅コアレス、ホビンスコイル、軽量化した。無共振化したアルホデイ。純ベリリウムテーパードパイプ、

コメント：試聴したところ透明感と暖かみを感じる美しい音です。

NO:46.5 形式:PC-110 パイオニア (Pioneer) パイオニア (株)



① MM、② 15 - 25,000Hz ③ 3.5mV、④ 0.5mil、⑤ 5.4g(実測)、⑥ 1.8 ~ 2.5(2.2 標準)、⑦ 500、
⑧ 30-100、⑨ 20、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭ 2.5、⑮、⑯ 1968/1、⑰、⑱ 5,500、⑲、⑳インター
ネット

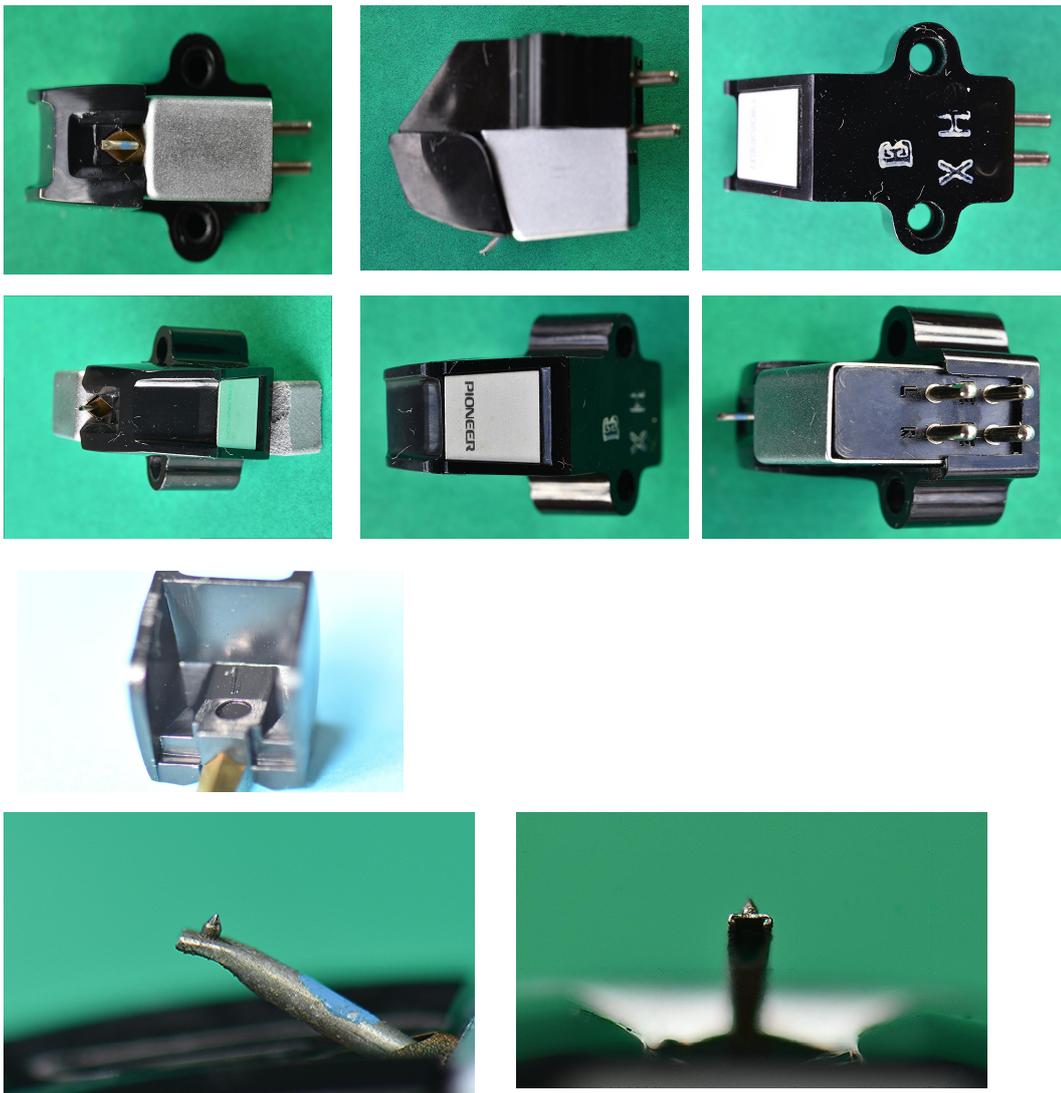
パイオニアの初期の代表的なカートリッジ、同社の多くのプレーヤに装着されています。
形名表示がボディにないので PC-110 / II との区別が困難ですが、幸いなことに自重比較
(5.4g と 5.1g) から推定出来ました。ボディの底面の文字 (Tk は彫り込み文字) にも相
違があります。PN-110 のスタイラスは内面にパイオニアのマークがあり、純正品です。
残念ながら針先欠損で入手しました。

PC-150 用黄色 PN-150 (パイオニア純正品)、海外向けモデル PC-12 用赤色 PN-12(東京
宝石製)も装着可能でした。PN-12 は形状の違いなどが少しあるため、レコード面に接触
する事がありますので注意が必要でした。

試聴には純正品が針先欠損なので PC-110/II 用のスタイラス、針圧 2.0g で試聴しました。
すごくやさしい滑らかな音です。低音は少なめです。

PC-110/II の音と比較すると PC-110/II は音の透明感が優れています。低音も豊かでした。
出力電圧は同じ感じでした。

NO:46.6 形式:PC-110 II パイオニア (Pioneer) パイオニア (株)



① MM、② 15 - 25,000Hz ③ 3.5mV、④ 0.5mil、⑤ 5.1g(実測)、⑥ 1.5 ~ 2.5(2.2 標準)、⑦、⑧ 30-250、⑨ 20、⑩、⑪ 25、⑫、⑬ 20、⑭、⑮、⑯ 1976/3、⑰、⑱ 6,500、⑲、⑳ SG78
パイオニアの初期の代表的なカートリッジ、同社の多くのプレーヤに装着されています。形名表示がボディにないので PC-110 との区別が困難ですが、区別方法については PC-110 を参照願います。ボディの底面の文字はペンキで描かれています。

黒色スタイラス PN-110 II はメーカー不明です。PC-150 用黄色 PN-150 (パイオニア純正品)、海外向けモデル PC-12 用赤色 PN-12(東京宝石製)も装着可能でした。PN-12 は形状の違いなどが少しあるため、レコード面に接触する事がありますので注意が必要でした。

2.2g で試聴したところ高域から低域までバランスのとれた透明感のある音で低音も綺麗です。大変良いカートリッジと思います。3 個のスタイラスを聞き比べると PN-110 II の音が明瞭感、切れも良いと感じた。PN-110 II の出力電圧は PN-150、PN-12(東京宝石製)より 1 m V 位高い。(方位計でカチレバー内の磁力を調べたら相違があった。)

NO:46.7 形式:PC-131 パイオニア (Pioneer) パイオニア (株)



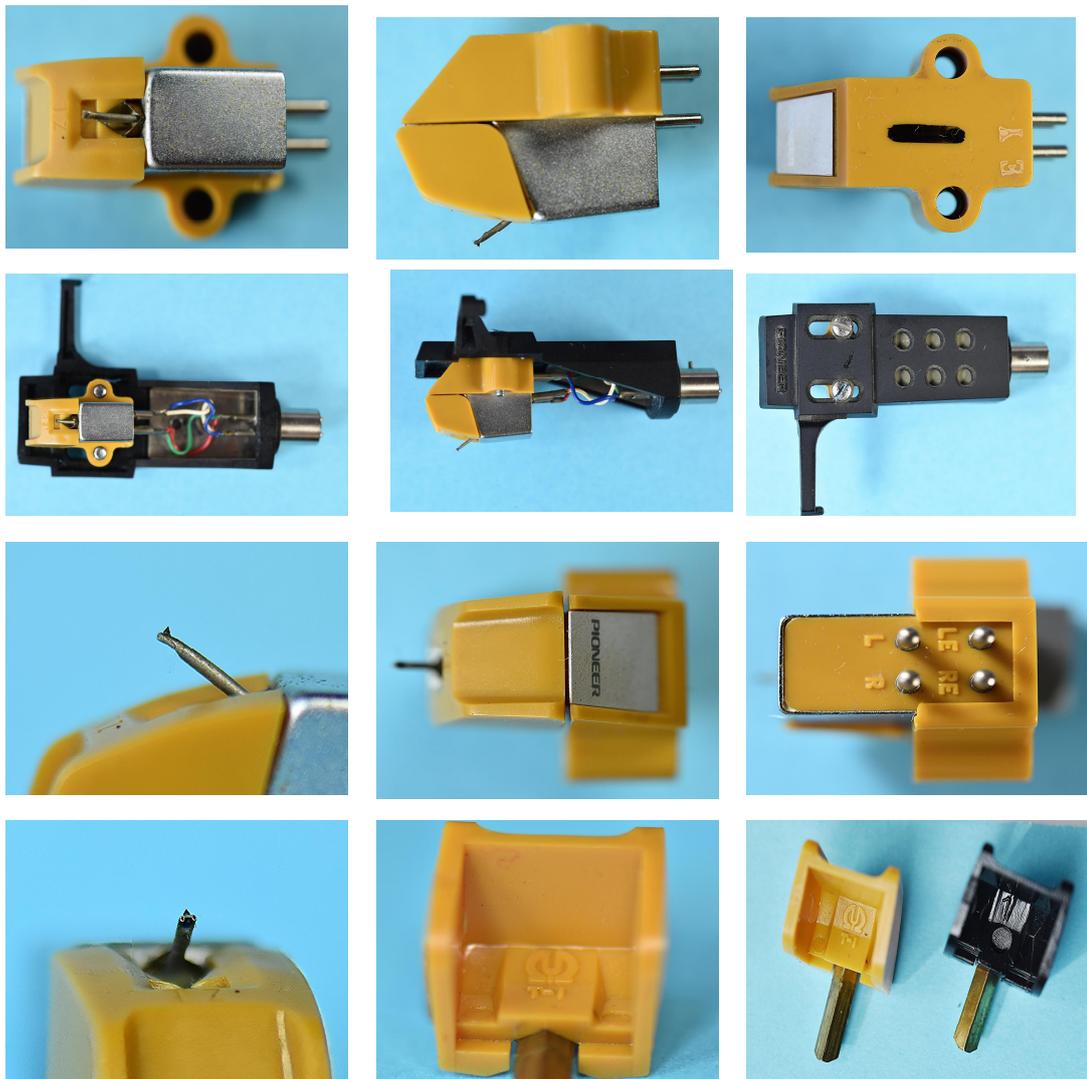
- ① MM、② 15 - 28,000Hz ③ 4mV、④ 、⑤ 5.4g、⑥ 1.5 ~ 2.5 (2 標準)、⑦、⑧ 30-250、
⑨、⑩、⑪ 25、⑫、⑬ 10、⑭、⑮、⑯ 1976/3、⑰、⑱ 7,500、⑲、⑳ SG'78

パイオニアの初期のカートリッジです。針先のデータが分からないのが残念です。

スタイラスの嵌合機構がパイオニアの他のカートリッジと異なっています。オーディオテクニカの AT-VM3、オーディオライフの AC - 101 に似ています

2.2g で試聴したところ明るい透明感のある音で低音も綺麗です。

NO:46.8 形式:PC-150 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



① MM、②、③ 3.5mV、④ 0.5mil、⑤ 5.3g(実測)、⑥ 1.8 ~ 2.5(2.2 標準)、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭、⑮、⑯、⑰、⑱、⑲、⑳インターネット

特記事項：PC-110 IIと同じ系統のカートリッジ、スタイラスは PC-110 IIで使用出来るものが全て装着出来、PC-150 の出力は 1 m V 位小さい。(方位計でカチバー内の磁力を調べたら相違があった。)

ボディはPC-150、スタイラスはPN-150(パイオニアの純正品)です。

コメント：2.0g で試聴したところ、滑らかで柔らかい美しい音ですが、ツヤがありません。低音も綺麗です。

NO:46.9 形式:PC-330 パイオニア(Pioneer) パイオニア(株)



- ① MM、② 10 - 28,000Hz ③ 3mV、④ 0.5mil、⑤ 5.1g、⑥ 1.5 ~ 2.5(2.2 標準)、⑦、⑧ 30-100、
⑨、⑩、⑪ 25、⑫、⑬ 25、⑭、⑮、⑯ 1973/1、⑰、⑱ 9,500、⑲、⑳ SG'75

コメント：このカートリッジのシリーズに PC-330 II カートリッジがありますが、外観形状のスタイラス側板に PIONEER の表示がないので、本製品は PC-330 です。軽針圧、コンプライアンスが少、負荷抵抗に変化があります。

スタイラスは多数のメーカーが提供しており、側板の色が異なるようです。黒緑色（純正）、濃緑色（東京宝石）、乳白色（カガカ）、黄土色、紺色(KOWA)などです。スタイラスの側面の隔板が右側と左側で黒緑色と灰色と異なっています（純正-2）。高域から低域まで透明感のある伸び伸びした美しい音が出ています。